

建設現場は今

ビルを創る人々

1989
作品ナンバー0307

第28回日本産業映画・ビデオコンクール奨励賞 第3回日本産業映像祭部門賞

現在どの業種においても、現場離れが進んでいるといわれている。特に建設業では現場を志向する若い人の減少が深刻な問題となっている。確かに、建設業の現場は他の職種に比べて危険もともない、労働環境は必ずしも良いとはいえない。しかし、自分の仕事が具体的な形となる喜びが感じられる創造性のある職場であり、多種多様な人間が触れ合う活気あふれる職場でもある。この映画は、建設現場に興味を持つ若い人々に、建設現場の本当の姿を理解してもらうために、現場に働く人々の生の声を交えながら、多くの職種の人々とのかわりのなかで、ビルというひとつの作品をつくりあげていくことへの魅力を描いていく。



ある生命保険会社の本社ビルの新築工事が進められている。ホテルを含む20階建ての大工事が、所長を中心とした16人の所員と何百人もの職人たちの手で進められていく。

現場の1日の仕事は大きな川の流れのように着実に完成に向かっていく。そこには一見何の問題もないように見えるが、あちらこちらでいろいろな問題が絶えず発生しては、解決されていく。

所員の中には、入社したばかりの1～2年生もいれば、10年選手もいる。新人の教育から施工管理の実務にまで忙しい副所長や、現場のすべてを決定し、責任をもたなければならない所長と、皆が自分の仕事にベストを尽くし、スクラムを組んで仕事が進められる。

こうして2年8ヵ月にわたる長い間の共同作業の末にビルが完成した。

記録
16ミリ
カラー／29分

■企画
大成建設株式会社

スタッフ

- 製作
村山英世
- 脚本・演出
宮木辰夫
- 撮影
遠藤一彰
山屋恵司
- 照明
浅見良二
本橋俊男
水村富雄
- 編集
吉田栄子
加納宗子
- 音楽
矢込弘明
- 解説
伊藤惣一